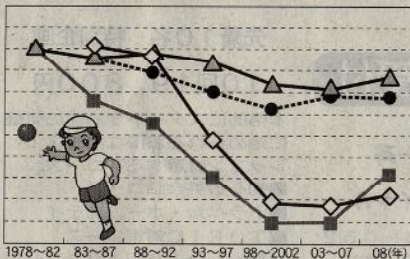


子どもの体力低下 「改善の兆し」

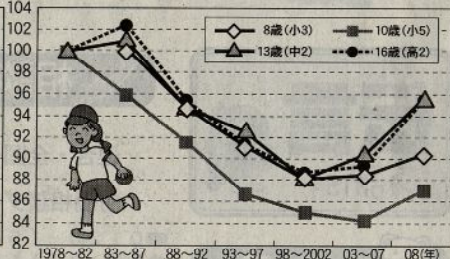
2009. 6. 県教委・公立小中高テスト結果
2009. 6. 7

新体力テスト平均値の年次推移

ボール投げ(男子)



ボール投げ(女子)



※1978年～82年の平均値を100とした場合の5年間の平均値の割合を各種目別に示したものの

鳥取県教委は県内すべての公立小中高校で行った「平成20年度新体力テスト」の調査結果を発表した。力が低下傾向にあって長年の課題となっていた「50歳走」「ボール投げ」「握力」の3種目では、数値が横ばいや上向いた結果もあり、県教委は「低下傾向が下げ止まったように思われる」と分析している。

「走力」「投力」など下げ止まり傾向

全身持久力を判断するシャトルランは男女とも全学年で全国値を

上回ったほか、敏しよ

テストは県内の全公立小中学校と県立高校(全日制)の児童・生徒約6万4000人に実施。そのうち約10%(約7900人)を抽出して結果をまとめた。テストの内容は▽握力▽上体起こし▽長座体前屈▽反復横跳び▽20歳シャトルラン▽50歳走▽立ち幅跳び▽ボール投げの8項目。

教育

ご意見をお寄せください

〒680-8688(住所不要)

新日本海新聞社報道部教育担当

電子メール kyouiku@nnn.co.jp

ファクス 0857(37)0037

国値より優れた。県の課題だった「50歳走(走力)」と「ボール投げ(投力)」は全国値よりも劣る学年が減少。特に「ボール投げ」では過去5年ごとに区切った県内平均値の結果と比べて上向いた学年が多くなっており、県教委は「体力低下に改善の兆しが見える」と話している。